

# 名古屋孝幸

NAGOYA, Takayuki



人間形成教育センター副センター長  
教授

所属…人間形成教育センター

Profile

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>主な担当科目</b>    | 情報リテラシ1・2、プログラミング、数理基礎                      |
| <b>研究者略歴</b>     |   |
| 2002 (平成14) 年 4月 | 東京電機大学理工学部情報システム学科助手                        |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 東京電機大学理工学部サイエンス学系助教                         |
| 2008 (平成20) 年10月 | 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科助教                      |
| 2011 (平成23) 年 4月 | 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科講師                      |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 鳥取環境大学人間形成教育センター講師                          |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授   |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長                    |

Research

|                 |  |
|-----------------|--|
| <b>取得学位</b>     | 博士 (理学) (電気通信大学)   |
| <b>専門分野</b>     | アルゴリズム論, 計算量理論, グラフ理論, オペレーションズ・リサーチ   |
| <b>現在の研究テーマ</b> | ・ グラフ同型性判定問題の計算量の解析<br>・ 配送計画問題に対する近似アルゴリズムの研究<br>・ グラフ理論を用いた静的文字画像からの筆記運動の抽出          |
| <b>所属学会</b>     | ヨーロッパ理論計算機学会 (European Association for Theoretical Computer Science), 電子情報通信学会, 情報処理学会 |

Data

|                   |   |
|-------------------|---|
| <b>研究等活動</b>      |   |
| <b>【論文】</b>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [Polynomial Time Algorithms for Variants of Graph Matching on Partial k-Trees] (単著), 2016年, Foundations of Computing and Decision Sciences, Vol. 41, Issue 3, De Gruyter.</li> <li>・ [Recovering Human-Like Drawing Order from Static Handwritten Images with Double-Traced Lines] (共著), 2012年, Lecture Notes in Electrical Engineering, Vol.253.</li> <li>・ [クリークサイズを制限した弦グラフに対する制約付きグラフ同型性判定アルゴリズム] (単著), 2012年, 電子情報通信学会和文論文誌 D, Vol.J95-D, No.11.</li> <li>・ [Recovering Drawing Order of Single-Stroke Handwritten Images Using Probabilistic Tabu Search] (共著), 2012年, Journal of Mobile Multimedia, Vol.8, No.2.</li> <li>・ [Computational complexity of computing a partial solution for the graph automorphism problems] (共著), 2009年, Theoretical Computer Science, Vol. 410, Issue 21-23.</li> <li>・ [New differential approximation algorithm for k-customer vehicle routing problem] (単著), 2009年, Information Processing Letters, Vol. 109, Issue 8.</li> <li>・ [Computing Graph Automorphism from Partial Solutions] (単著), 2009年, Theory of Computing Systems, Vol. 44, No. 3.</li> </ul>   |
| <b>【査読付き国際会議】</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [Variants of graph matching for tree-like graphs] (単著), 2015, International Conference on Big Data Intelligence and Computing, Chengdu, China.</li> <li>・ [Recovering Dynamic Stroke Information of Multi-Stroke Handwritten Characters with Complex Patterns] (共著), 2012, International Conference on Frontiers in Handwriting Recognition, Bari, Italy.</li> <li>・ [A Graph Theoretic Algorithm for Recovering Drawing Order of Multi-Stroke Character Image] (共著), 2011, The Third International Conference on Intelligent Networking and Collaborative Systems, Fukuoka, Japan.</li> <li>・ [Recovering Drawing Order from Static Handwritten Images Using Probabilistic Tabu Search] (共著), 2011, IEEE Region 10 Conference, Bali, Indonesia.</li> <li>・ [Recovering Stroke Order from Multi-Stroke Character Images] (共著), 2011, 2nd International Conference on Innovative Computing and Communication, Macao, Macao.</li> <li>・ [Relating Complete and Partial Solution for Problems Similar to Graph Automorphism] (共著), 2007, The 32nd International Symposium on Mathematical Foundations of Computer Science, Czech Republic.</li> </ul> |
| <b>【科研費】</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [制約付きグラフ同型性判定問題に関する研究] (単著), 2014-2016年度 科研費 研究基盤 (C) 研究成果報告書, 2017年.</li> <li>・ [手書き板書方式ビデオ教材共同開発のためのシステム基盤構築] (共著), 2014-2016年度 科研費 研究基盤 (C) 研究成果報告書, 2017年.</li> <li>・ [グラフ最適化問題に対する近似アルゴリズムの研究] (単著), 2012-2013年度 科研費 若手研究 (B) 研究成果報告書, 2014年.</li> <li>・ [グラフ同型性判定問題の計算量の解析および効率的なアルゴリズムの提案] (単著), 2010-2011年度 科研費 若手研究 (B) 研究成果報告書, 2012年.</li> </ul>  |
| <b>【社会貢献活動】</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度科学の甲子園ジュニア全国大会鳥取県代表研修会 講師</li> <li>・ 令和元年度鳥取県子どものインターネット利用教育啓発推進協議会 委員</li> <li>・ 平成30年度科学の甲子園ジュニア全国大会鳥取県代表研修会 講師</li> <li>・ 平成29年度総務省「若者を対象とした IoT 機器の適正な電波利用を図るための人材育成方策に関する調査研究」事業鳥取運営委員会 委員</li> <li>・ 2015-2019年 International Symposium on Computing and Networking(CANDAR), program committee</li> <li>・ 2016-2019年 International Workshop on Parallel and Distributed Algorithms and Applications(PDAA), program committee</li> <li>・ 平成26～29年度科学の甲子園ジュニア全国大会鳥取県代表研修会 講師</li> <li>・ 平成27年度公立鳥取環境大学公開講座「パズルとその数理」講師</li> <li>・ 平成25～27年度科学の甲子園全国大会鳥取県代表強化セミナー 講師</li> </ul>  |

## 千葉 雄二

CHIBA, Yuji



教授

所属…人間形成教育センター  
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

## Profile

■主な担当科目 特別講義B, 地域分析特論

## ■研究者略歴

- 1975 (昭和50) 年 3月 早稲田大学法学部卒業 (法学士)
- 1975 (昭和50) 年 4月 川崎製鉄株式会社 (現JFEスチール株式会社) 調査部, 鉄鋼企画部, 経営企画部, 関係会社等 (~2003年3月)
- 2003 (平成15) 年10月 (財) とっとり政策総合研究センター調査研究ディレクター, (財) とっとり地域連携・総合研究センターディレクター兼調査研究部長兼地域連携部長 (~2012年9月)
- 2012 (平成24) 年 4月 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・教授
- 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授
- 2016 (平成28) 年 4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授

## Research

■取得学位 法学士

■専門分野 地域学, 統計, 産業連関表, 多変量解析

■現在の研究テーマ ・地域性を規定する要因の研究  
・地域に関する制度, 経済, 文化, 思想の研究

■所属学会 日本地域学会, 環太平洋産業連関分析学会, 日本地域経済学会, 国際経済学会

## Data

## ■研究等活動

## 【報告書】

- ・「鳥取市用瀬町江波集落の存続性について」2017年
- ・「地域小売業の現状と今後の展開についての調査研究」2016年
- ・「鳥取市における事業所再編による雇用変動」2013年
- ・「鳥取県内の宅配利用動向についての調査研究」2013年
- ・「鳥取県版事業仕分け(事業棚卸し)の意義と今後の展開」, 2011年, 「TORCレポート」第34号
- ・「鳥取県の長期生産力の行方」, 2010年, 「TORCレポート」第33号
- ・「環境・エネルギー問題と地域経済」, 2009年, 「TORCレポート」第32号

## 【学会報告】

- ・環太平洋産業連関分析学会第30回全国大会「地域性と関係の分析を視点とした市町村間産業連関表の作成」2019年
- ・第56回日本地域学会報告「地域間産業連関表の作成と町村存続」2019年
- ・第51回日本地域学会報告「地方都市における事業所縮小による雇用変動の分析」2014年
- ・第42回日本地域学会基調講演「鳥取県の経済的自立」2005年

## 【学会活動】

- ・第52回日本地域学会セッション座長 (2015年)
- ・各回日本地域学会セッション討論者 (2014年~)

## ■社会貢献活動

## 【調査研究支援】

- ・鳥取市「鳥取市の人口分析」2015年
- ・北栄町「集客施設の政策効果 -青山剛昌ふるさと館の地域効果-」2014年
- ・八頭町「鳥取県内市町村の人口転出の動向」2014年

## 【講演】

- ・鳥取県町村議会議長会「地方創生と地域特性」2015年
- ・鳥取県「地域社会における子育て支援」2014年
- ・鳥取県中小企業団体中央会「商業と地域 -宅配, 通信販売の伸張と地域商業-」2014年

## 【委員会】

- ・鳥取県北栄町「行政改革委員会会長」(2015年~)
- ・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業地域採択審査委員会委員長 (2013年~2017年)
- ・鳥取県北栄町事業仕分コーディネーター (2011年~2014年)
- ・鳥取市現本庁舎周辺地域活性化検討委員会委員長 (2011年, 2012年)

ベゴール・ベッティーナ



教授

Bettina BEGOLE

所属…人間形成教育センター

✉ begole@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 Intensive English 1～8

■ 研究者略歴

|                   |  |
|-------------------|--|
| 1981 (昭和56) 年 11月 | 米国ミズーリ州立中央大学 (Central Missouri State University) レクリエーション・保養と野外教育文学士 |
| 1990 (平成 2) 年 8月  | 倉敷市教育委員会英語指導助手 (～ 1998年)   |
| 1996 (平成 8) 年 3月  | 米国バーモント州S.I.T.大学(神戸キャンパス) 英語教育修士                                     |
| 1998 (平成10) 年 4月  | 鳥取NHK文化センター英会話教師、子供の英語教師   |
| 2001 (平成13) 年 4月  | 鳥取環境大学非常勤講師(2002年4月～2006年3月 英語特任講師)                                  |
| 2006 (平成18) 年 2月  | 鳥取県国際交流財団翻訳・通訳者  |
| 2006 (平成18) 年 4月  | 鳥取大学非常勤講師  |
| 2009 (平成21) 年 9月  | 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授  |
| 2015 (平成27) 年 4月  | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授  |
| 2019 (平成31) 年 4月  | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授   |

Research

■ 取得学位 文学修士 (外国語として英語教育法/ TESOL) (S.I.T., Kobe Campus)

■ 専門分野 英語教育, 多読, 翻訳学

■ 現在の研究テーマ

- ・ 英語能力を向上させるための多読に関する研究
- ・ 外国語として英語教育 (TEFL) に関する研究
- ・ 英語教育に関する研究

■ 所属学会

JALT(全国語学教育学会)  
 JALT鳥取支部役員  
 IATEFL(International Association of Teachers of English as a Foreign Language)  
 JACET(Japan Association of College English Teachers)

■ 資格 日本赤十字社救急法指導員

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・ [Welcome to Intensive English, 2017年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English] (単著) 2016年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English] (単著) 2015年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English] (単著) 2014年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English and Your Reading and Writing Class] (単著)、2013年、TUES
- ・ [Introduction to Intensive English: Your Reading and Writing Class] (単著)、2012年 (初版)、TUES
- ・ [TUES Intensive English Practical English B, Reading and Writing] (単著)、2011年(2版)、TUES

【報告書】

- ・ Extensive Reading in the Language Classroom: A literature review 「語学授業における多読：研究レビュー」 (共著)、2017年、公立鳥取環境大学紀要 15号
- ・ 多読による英語教育—その効果と今後の課題—Extensive Reading in English Education:Efficacy and Future Challenges (共著)、2015年、鳥取環境大学紀要13号
- ・ 「英語の自由作文における学生の文法精度に関する長期的な考察」 A Longitudinal Study of Students' Grammatical Accuracy during Their Production of Unscripted English (共著)、2014年、鳥取環境大学紀要12号
- ・ 「インテンシブ・イングリッシュ履修一年後における英検スコア変動に関する報告書」 A Short Report on Changes in Students' Eiken Test Scores after One Year of Intensive English」 (共著)、2012年、鳥取環境大学紀要10号
- ・ Extensive Reading with Low-level Students; Problems, Solutions, and Results, JACET Summer Seminar Proceedings No. 11; Advanced EFL and ESP Reading (単著)、2013年2月
- ・ 「英語読解能力と英文作成能力を向上させるための多読 Using Extensive Reading to Improve Students' English Reading and Writing: A Preliminary Report」 (単著)、2012年、鳥取環境大学紀要9号
- ・ 「鳥取環境大学のインテンシブ・イングリッシュ (IE) 過去、現在、そして未来」 (単著)、2010年、鳥取環境大学紀要8号
- ・ 「Don't Teach Swimming from the Pool Deck」 (単著)、2010年、鳥取環境大学紀要8号

■ 社会貢献活動

- ・ 鳥取県教育委員会外国語指導助手の指導力等向上研修会、Active Learning: What is it, and what can we do?, 講義・演習、2019年12月
- ・ 鳥取県教育委員会高校英語弁論大会、審査長、2019年9月
- ・ 鳥取ハーナウ友好親善協会、理事、2018年～
- ・ 中国地域高等学校英語弁論大会、審査長、2018年11月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、Growth Mindset and Active Learning in the English Classroom、2018年8月
- ・ コンピューターを活用したロール・プレイング・ゲームによる、環境的、経済的な課題へのアクティブ・ラーニングの適用、全国語学教育学会鳥取支部、2018年1月
- ・ 鳥取県教育委員会高校英語弁論大会、審査長、2017年9月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、Active Learning in the English Classroom、2017年8月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、2016年8月
- ・ 鳥取県外国語指導助手及び外国語担当教員中間期研修会(Getting Along in the Workplace) 2015年12月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、2015年8月
- ・ 鳥取県外国語指導助手及び外国語担当教員中間期研修会 (Motivating Students)2014年12月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、2014年8月

人間形成教育センター

徳山 瑞文

TOKUYAMA, Mizufumi



教授

所属…人間形成教育センター

tokuyama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 Intensive English (リーディングとライティング、リスニングとスピーキング)

■ 研究者略歴

1987 (昭和62) 年 7月 中国東北師範大学外国語学部英語学科卒業

1987 (昭和62) 年 7月 中国吉林省教育学院 英語教師

1999 (平成11) 年 4月 鳥取県立青谷高等学校にて日本文部省JETプログラムの外国語助手 (ALT)

2003 (平成15) 年 3月 鳥取大学大学院教育学部教育学研究科教科英語教育修了

2003 (平成15) 年 4月 鳥取環境大学 英語非常勤講師

2017 (平成29) 年 4月 鳥取環境大学 英語特任講師

2019 (平成31) 年 4月 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 教授

Research

■ 取得学位 教科教育修士 (鳥取大学)

■ 専門分野 英語教育

■ 現在の研究テーマ

- ・日本人の英語勉強法に関する研究  
第二言語としての英語標準勉強法を確立させていけば、英語に対するコンプレックスがなくなって英語教育に興味を抱くのではないのでしょうか。
- ・英語能力の尺度「CEFR」に関する研究  
「CEFR」は欧州内で他国とのコミュニケーションが重視されて、外国語勉強の評価共通基準として、2001年から導入しています。英語を使う人が自分の能力がどのレベルに達しているかわかるように、「CEFR」は活用すれば、現在の文部科学省が示す中高生英語能力の水準に到達出来る可能性があるのではないのでしょうか。

■ 受賞歴 1998年9月 中国吉林省教育学院 青年優秀教師賞

■ 所属学会 日本全国英語教育学会、中国地区英語教育学会

■ 資格 中国大学教師資格

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・「English Education of the New Century in Japan -- Examination of ALT's Functions through the Analyses of Junior High School New Textbooks and the New Strategies of English Education」、2003年、「鳥取大学英語研究」第4号

【報告書】

- ・「Is It Necessary to Use "All English" for the Classes of ESL?」2015年、中国地区英語教育学会

■ 社会貢献活動

- ・2013年1月から2017年3月の間、鳥取NHK文化センターにて英会話教室教師

# 桑本 裕二



教授

KUWAMOTO, Yuji

所属…人間形成教育センター

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~kuwamoto>

E-Mail [kuwamoto@kankyo-u.ac.jp](mailto:kuwamoto@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■ **主な担当科目** 英文作成 1、2、インテンシブ・イングリッシュ 4、5、7、8

### ■ 研究者略歴

|                  |  |
|------------------|--|
| 1992 (平成 4) 年 3月 | 東北大学文学部言語学専攻卒業                         |
| 1994 (平成 6) 年 3月 | 東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了 (言語学専攻分野)、修士 (文学) |
| 1997 (平成 9) 年 3月 | 東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了 (言語学専攻分野)、博士 (文学) |
| 2000 (平成12) 年10月 | 秋田工業高等専門学校人文科学系講師                      |
| 2006 (平成18) 年 7月 | 秋田工業高等専門学校人文科学系助教授                     |
| 2007 (平成19) 年 4月 | 秋田工業高等専門学校人文科学系准教授                     |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授                   |

## Research

■ **取得学位** 博士 (文学) (東北大学)

■ **専門分野** 言語学、音韻論

■ **現在の研究テーマ** ・分節音の共鳴性と音節構造について  
 ・鳥取県倉古方言 (中部方言) の音韻研究  
 ・小・中・高校の英語教員に対する英語発音指導法の開発および英語教育への応用

■ **所属学会** 日本言語学会、日本音声学会、日本音韻論学会、日本語学会

■ **資格** 実用英語技能検定準1級、TOEICスコア815点、高等学校教諭一種免許 (外国語 (英語))、日本漢字能力検定準1級

## Data

### ■ 研究等活動

#### 【著書】

- ・『大学・高専・短大生のための英文法再入門』(編著)、2019年、開拓社
- ・『改訂版 小学校英語 発音のフシギ from いんぐりっしょ to English』、2017年、秋田魁新報社
- ・『最新英語学・言語学用語辞典』(共著、項目分担執筆)、2015年、開拓社
- ・『小学校英語の発音と指導—iPadアプリ「白柴さくらのえいごカルタ」読本—』(共著)、2015年、開拓社
- ・『小学校英語 発音のフシギ from いんぐりっしょ to English』、2011年、秋田魁新報社
- ・『若者ことば 不思議のヒミツ』、2010年、秋田魁新報社

#### 【論文】

- ・『鳥取県倉古方言におけるア段長音の派生と分布について』『東北大学言語学論集』第26号
- ・『周辺からコアへ：若者ことば・方言から言語をながめる』2017年、『東北大学言語学論集』第26号
- ・『/sC/頭子音結合のゲルマン語・ロマンス語における表出』2016年、『東北大学言語学論集』第25号
- ・『若者ことばは通時変化を確認できるか？—テレビドラマのデータベース作成とその分析結果より—』2016年『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論』、開拓社
- ・『鳥取県倉古方言における平板型アクセントの忌避』、2016年、『現代音韻論の動向 日本音韻論学会20周年記念論文集』(日本音韻論学会編)、開拓社

#### 【書評】

- ・『米川明彦著『ことばが消えたワケ 時代を読み解く俗語の世界』』『図書新聞』第3361号 (2018年7月28日)

### ■ 社会貢献活動

- ・出前授業「辞書に載っていないことば—若者ことば不思議のヒミツ—」2019年11月7日、於鳥根県立大田高校
- ・教員免許状更新講習、2016年度より毎年開催
- ・鳥取県立倉古西高等学校S3チャレンジ(人文) グループ個人研究発表会ゲストコメンテーター、2016年度より毎年実施
- ・講演「福本和夫と北栄町の方言—「伯耆北條地方ノ訛言・方言・略語考」を読み解く—」第1回郷土史入門講座、2019年9月21日、於北栄町図書館
- ・講演「倉古のことば・倉古で使うことば」誓願寺の集い講演、2018年7月7日、於誓願寺 (鳥取県倉古市)
- ・講演「地域文化を支える倉古方言—民衆の意識と学術研究をつなぐもの—」曹洞宗鳥取県宗務所第四教区護持会平成30年度総会講演会、2018年4月20日、於大学院 (鳥取県倉古市)
- ・平成29年度NHK杯全国高校放送コンテスト出展作品への電話取材2件 (山梨県立甲府東高等学校、福井県立羽水高等学校)
- ・「周辺からコアへ：若者ことば・方言から言語をながめる」2017年6月9日、滋賀大学経済学部講演会、於滋賀大学彦根キャンパス

# 中村 弘子

NAKAMURA, Hiroko



准教授

所属…人間形成教育センター

URL [www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/](http://www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/)

E-Mail [h-nakamu@kankyo-u.ac.jp](mailto:h-nakamu@kankyo-u.ac.jp)

Profile

■ **主な担当科目** Intensive English

■ **研究者略歴**

|                  |  |
|------------------|--|
| 1985 (昭和60) 年 3月 | 神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒業                        |
| 1988 (昭和63) 年 3月 | 神戸市外国語大学外国語学研究科修士課程英語学専攻修了                 |
| 1988 (昭和63) 年 8月 | 米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院修士課程言語障害学科入学             |
| 1989 (平成 元) 年 6月 | 国際ロータリー財団の奨学金給付期間終了後帰国                     |
| 1990 (平成 2) 年 4月 | パルモア学院専門学校専任教員                             |
| 1991 (平成 3) 年 4月 | 大阪外国語大学外国語学部非常勤講師                          |
| 2000 (平成11) 年 4月 | 宇都宮大学国際学部非常勤講師                             |
| 2002 (平成14) 年 4月 | 筑波大学外国語センター非常勤講師                           |
| 2003 (平成15) 年 9月 | 米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程入学 |
| 2004 (平成16) 年 6月 | 米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程修了 |
| 2009 (平成21) 年 9月 | 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授                        |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授                      |

Research

■ **取得学位** 文学修士 (神戸市外国語大学), Master of Arts (コネチカット大学)

■ **専門分野** 英語教育, 応用言語学, 言語障害

■ **現在の研究テーマ** ・日本人のコミュニケーション不安と外国語学習不安  
 ・日本人のコミュニケーション不安に関する音響学的分析  
 ・言語リズムの習得と母語の干渉について

■ **受賞歴** 1988年 国際ロータリー財団大学院留学奨学生

■ **所属学会** 大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本音声学会, ことばの科学会

■ **資格** 実用英語技能検定1級, TOEIC®スコア950点, 高等学校教諭専修免許状 (英語)

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「大学・高専・短大生のための英文法再入門」(分担執筆), 2019年, 開拓社
- ・「文法の獲得」(分担執筆), 2007年, 『ことばの認知と仕組み—ことばの科学の最前線』三省堂
- ・「一語文期における母国語の影響に関する一考察—bye-bye vocalizationの日米比較」(分担執筆), 『ことばの心理と学習』1998年, 金星堂

【論文】

- ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, (2018) 『英語学論説資料』第50号 論説資料保存会
- ・「母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について」, 2016, 『ことばの科学研究』第16号
- ・「A comparative study of vocal fundamental frequency in the speech of Japanese and American hearing-impaired children」(共著), 2006年, *Logopedics, Phoniatrics, Vocology*, Volume 31, pp. 1-6.
- ・「L1 communication apprehension and L2 oral proficiency in Japanese university students」2006年, 『外国語教育論集』第28号, pp. 199-207, 筑波大学外国語センター
- ・「Effect of ambient language in the period of first words: bye-bye vocalizations of Japanese and American children」(共著), 2000年, *Asia-Pacific Journal of speech, language, and volume* 5.1, pp.35-43.

【報告書】

- ・「コミュニケーション不安と英語教育」, 2012年, 『鳥取環境大学紀要』第9号・第10号合併号, pp.127-129.
- ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, 2016年, 『公立鳥取環境大学紀要』第14号, pp. 89-93.

【翻訳】

- ・「人間の動機づけと感情における認知」(分担執筆), 2002年, 『感情の社会生理心理学』金子書房

【辞典】

- ・「スピーキングのモデル」「サーキットモデル」「ロゴジェンモデル」「サーチモデル」他, 2003年, 『応用言語学辞典』, 研究社

【国際会議】

- ・「FO Analysis for the Oral Presentation in English by Japanese University Students」, 2017年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, International University of Health and Welfare, Narita, Japan
- ・「Communication Apprehension and L2 Learning Anxiety in Japanese, Korean, and Taiwanese University Students」(共著), 2013年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, Chung Shan Medical University, Taichung City, Taiwan
- ・「L1 Communication Apprehension among Asian University Students」, 2011年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand
- ・「A comparative study of vocal fundamental frequency: Japanese and American hearing-impaired children」(共著), 2007年, Canterbury Conference on Communication Disorders, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand

■ **社会貢献活動**

- ・放送大学鳥取学習センター面接授業担当 (2019年11月~12月)
- ・「授業に役立つ英語音声学」, 2014年~2019年, 8月, 教員免許状更新講習
- ・「TOEICセミナー」, 2012年10月~11月, 2014年9月, 2016年, 8月~9月, 2019年, 9月, 公立鳥取環境大学公開講座
- ・第30回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬支部予選審査委員長, 2015年10月
- ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について」, 2015年7月, 鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働力育成プログラム
- ・「国際奉仕月間フォーラム」, 2014年2月, 国際ロータリー第2660地区大阪城南ロータリークラブ
- ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安」, 2012年5月, 鳥取市民大学国際理解講座
- ・公益信託とりぎん青い鳥基金運営委員 (2014年9月~2020年3月)

# バンヴィル ショーン

BANVILLE, Sean



特任准教授

所属…人間形成教育センター

URL <https://breakingnewsenglish.com/>

Eメール [banville@kankyo-u.ac.jp](mailto:banville@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

|                  |  |
|------------------|--|
| ■ <b>主な担当科目</b>  | インテンシブ英語1 (スピーキングとリスニング)、インテンシブ英語2 (リーディングとライティング)、インテンシブ英語5 (スピーキングとリスニング)                                      |
| ■ <b>研究者略歴</b>   |  |
| 1987 (昭和62) 年 6月 | カーディフ大学、ウェールズ、UK 卒業 (学士: 会計学)  |
| 1993 (平成 5) 年 7月 | ブリティッシュカウンシル、トルコ 卒業  |
| 1994 (平成 6) 年 1月 | エンサイクロピーディア プリタニカ (神戸) 入社 (ナショナル ティーチャー トレーナー、スクールマネージャー)  |
| 1998 (平成10) 年 1月 | プリンスフォード イングリッシュ カレッジ (大阪) 入社<br>カリキュラムデザイン、カレッジマネージャー、ティーチャートレーナー   |
| 2003 (平成15) 年 9月 | バーミンガム大学 イギリス 修了 (修士: TEFL/TESL)   |
| 2006 (平成18) 年 1月 | Higher Colleges of Technology<br>ファンデーションコース チームリーダー アブダビ女子大学・カリキュラムデザイン、オンラインレッスン アラブ首長国連邦・ブレンディッドラーニング チームリーダー |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 公立鳥取環境大学 非常勤講師   |
| 2016 (平成28) 年 4月 | 鳥取大学 非常勤講師   |
| 2020 (令和 2) 年 4月 | 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 特任准教授  |

## Research

|                   |   |
|-------------------|---|
| ■ <b>取得学位</b>     | 会計学 (学士) (カーディフ大学 ウェールズ)<br>TEFL/TESL (修士) (バーミンガム大学 イギリス)  |
| ■ <b>専門分野</b>     | 英語教育  |
| ■ <b>現在の研究テーマ</b> | How a Discourse Intonation approach can advance communicative pronunciation and communicative competence and performance. |
| ■ <b>受賞歴</b>      | Nominated for ブリティッシュ・カウンシル award for Innovation in Learner Resources   |
| ■ <b>所属学会</b>     | Japanese Association of Language Teachers (JALT)  |
| ■ <b>資格</b>       | RSA CTEFLA  |

## Data

|                |   |
|----------------|---|
| ■ <b>研究等活動</b> |   |
| 【著書】           | <ul style="list-style-type: none"> <li>「Breaking News Listening Student Book」 (共著) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson, Sean Banville, 2010年, MacMillan Language House</li> <li>「Bringing News Into The Classroom」, 2010年, Finding Your Voice: Critical Issues in ELT. TESOL Arabia Publications</li> </ul>  |
| 【開発した教材等】      | <p>Breaking News English.com</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><a href="https://BreakingNewsEnglish.com">https://BreakingNewsEnglish.com</a><br/>時事ニュースを基にした2,850+の4技能インタラクティブレッスンと27ページのワークシート。</li> <li><a href="https://ESLDiscussions.com">https://ESLDiscussions.com</a><br/>709のトピックに関するディスカッションのプリント (14180の質問含む)。</li> <li><a href="https://ESLHolidayLessons.com">https://ESLHolidayLessons.com</a><br/>世界の祝日についての199のレッスン。</li> <li><a href="https://FamousPeopleLessons.com">https://FamousPeopleLessons.com</a><br/>有名人についての167の4技能レッスン。</li> <li><a href="https://ListenAMinute.com">https://ListenAMinute.com</a><br/>1分のリスニング教材を基にした479のレッスン。</li> <li><a href="http://www.NewsEnglishLessons.com">http://www.NewsEnglishLessons.com</a></li> <li><a href="http://www.FreeESLMaterials.com">http://www.FreeESLMaterials.com</a></li> <li><a href="http://www.LessonsOnMovies.com">http://www.LessonsOnMovies.com</a><br/>映画についての4技能レッスン</li> <li><a href="https://BusinessEnglishMaterials.com">https://BusinessEnglishMaterials.com</a><br/>世界の企業についての102の4技能レッスン。</li> <li><a href="http://www.LessonsOnAmericanPresidents.com">http://www.LessonsOnAmericanPresidents.com</a><br/>アメリカの歴代大統領についての4技能レッスン。</li> </ol> |

■ **社会貢献活動**

私は2012年から毎年、村のコミュニティプロジェクトの一環として、5月に田植え、9月に米の収穫を手伝っています。ここで収穫された米はケニアの孤児院に送られます。鳥取大学のG\_FRENZクラブの学生も年に2回参加しています。私は彼らが田植えや収穫活動を楽しめるように心がけています。

今年4月より、私が住む集落の子供達を対象に毎週土曜日、ボランティアで英会話を教えています。ブリティッシュカウンシルより「Innovation in Learner Resources」(学習教材の革新)部門で受賞しました。

# 市丸 夏樹

ICHIMARU, Natsuki



准教授

所属…人間形成教育センター

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~ichimaru/>

E-mail [ichimaru@kankyo-u.ac.jp](mailto:ichimaru@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■ **主な担当科目** 情報リテラシ1・2, プロジェクト研究1～7, (経営学部)専門演習1～3

### ■ 研究者略歴

|                   |                                    |
|-------------------|------------------------------------|
| 1990 (平成 2) 年 3月  | 九州大学工学部電子工学科卒業                     |
| 1992 (平成 4) 年 3月  | 九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻 博士前期課程修了  |
| 1995 (平成 7) 年 3月  | 九州大学大学院総合理工学研究科博士後期課程単位取得退学        |
| 1995 (平成 7) 年 4月  | 九州大学工学部情報工学科助手                     |
| 1998 (平成10) 年 4月  | 九州大学大学院システム情報科学府兼任                 |
| 2006 (平成18) 年 4月  | 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科講師             |
| 2007 (平成19) 年 4月  | 鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻情報システム領域兼務 |
| 2008 (平成20) 年 4月  | 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科准教授            |
| 2012 (平成24) 年 4月～ | 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授                |
| 2015 (平成27) 年 4月～ | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授              |

## Research

■ **取得学位** 博士 (工学) (九州大学)

■ **専門分野** 自然言語処理, 計算言語学

■ **現在の研究テーマ**

- ・ 統計的言語モデル
- ・ 日本語の短縮入力方式
- ・ 未知語の生成モデル
- ・ 自動要約
- ・ テキスト解析

■ **所属学会** 言語処理学会, 人工知能学会, 情報処理学会

人間形成教育センター

## Data

### ■ 研究等活動

#### 【論文】

- ・ "Thesaurus Granularity and its effects on the Kana/Kanji Transliteration of Japanese Derivative Words", 2013年9月, In proceedings of the *International Conference of Pacific Association for Computational Linguistics* PACLING2013, Sep3-7, CDROM.
- ・ 「要約文の話題の流れの最大化による自動要約」(共著), 2005年11月, 「自然言語処理」特集号「質問応答, 自動要約」, Vol. 12, No. 6, pp. 45-61.
- ・ 「シソーラスブラウザxthesにおけるDAG構造の描画アルゴリズムとその評価」, 2005年9月,九州大学システム情報科学研究院紀要, Vol. 10, No. 2, pp. 97-102.

吉田 聡



副学長補佐（教育、研究、情報、企画・評価担当）、  
情報メディアセンター副センター長、准教授

YOSHIDA, Satoru

所属…人間形成教育センター

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~satoru-y/>

Profile

|                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| ■ 主な担当科目          | 微分積分学, 線形代数学, 数理基礎            |
| ■ 研究者略歴           |                               |
| 2003 (平成15) 年 3月  | 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程 修了 |
| 2003 (平成15) 年 4月  | 石川県立松任高等学校臨時的任用講師             |
| 2005 (平成17) 年 8月  | 産業技術総合研究所・産総研特別研究員            |
| 2009 (平成21) 年 8月  | 鳥取環境大学情報システム学科講師              |
| 2013 (平成25) 年10月～ | 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授           |
| 2018 (平成30) 年 4月  | 公立鳥取環境大学情報メディアセンター 副センター長     |

Research

|            |   |
|------------|---|
| ■ 取得学位     | 博士 (情報科学) (北陸先端科学技術大学院大学)                         |
| ■ 専門分野     | 数理論理学   |
| ■ 現在の研究テーマ | ・ 解析学理論の計算可能性の研究<br>・ 数理的技法によるコンピュータシステムの検証に関する研究 |
| ■ 所属学会     | 日本数学会, 日本科学哲学会                                    |

Data

|          |   |
|----------|---|
| ■ 研究等活動  |   |
| 【報告書】    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「A note on continuity properties of relations」 (共著)、2019年、Rep. Fac. Sci. (鹿児島大学)、No.52, pp.1-6.</li> <li>・ 「On a certain discontinuous mapping as a continuous relation」 (共著)、2018年、京都大学数理解析研究所講究録2083, 150-155.</li> <li>・ 「ソフトウェア更新システムプロトコルの様相論理S4に基づく検証」、2016年、公立鳥取環境大学紀要, vol. 14, pp.95-103.</li> </ul>  |
| 【口頭発表】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「関係の各点連続性と点列連続性」、2020年2月、第7回山陰基礎論・解析学研究集会, 米子コンベンションセンター.</li> <li>・ 「システム開発の基盤となる能力育成への大学教育の試み」、2017年9月、Tsukuba Software Science Seminar, 産業技術総合研究所.</li> <li>・ 「構成的数学の体系と実践」、2017年6月、第179回数学文献を読む会、共立出版社.</li> <li>・ 「様相論理S4に基づくプロトコル検証」、2016年8月、第27回代数、論理、幾何と情報科学研究集会(ALGI)、信州大学.</li> <li>・ 「D-Case による SysML の説明力向上を目指して」 (共著)、2015年10月、信学技報, vol. 115, no. 281, KBSE2015-38, pp. 13-16.</li> <li>・ 「構成的解析学における超関数からなる空間の位相について」、2013年9月、SLAGICS 2013、京都大学数理解析研究所.</li> <li>・ 「構成的数学の体系とその実践」、2013年3月、数学の形式化に関する研究集会 (主催:九州大学数理学府グローバルCOEプログラム「マス・フォア・インダストリー教育研究拠点」)、アクロス福岡.</li> <li>・ 「連続性と様相-その一般化・非古典化の数理と形而上学」 (共著)、2010年11月、科学基礎論学会研究例会、日本大学文理学部.</li> </ul> |
| ■ 社会貢献活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥取県立八頭高等学校「探求ゼミ」講師, 2016～2019年度, 鳥取県立高等学校・大学教員交流事業.</li> <li>・ 鳥取県中学生プログラミングコンテスト (主催: 鳥取県情報産業協会) 審査員, 2013～2019年度.</li> <li>・ 八頭町指定管理選定委員, 2018年度.</li> <li>・ 第26回代数、論理、幾何と情報科学研究集会 (2015年8月) 会場世話人.</li> </ul>   |

久保 奨

KUBO, Susumu



准教授

所属…人間形成教育センター

s-kubo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 情報リテラシ2、データ・マイニング

■ 研究者略歴

|                  |                                      |
|------------------|--------------------------------------|
| 2003 (平成15) 年 3月 | 東京大学工学部物理工学科卒業                       |
| 2005 (平成17) 年 3月 | 東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻修士課程修了           |
| 2005 (平成17) 年 4月 | 総務省 (統計局, 総合通信基盤局など~2020年6月)         |
| 2007 (平成19) 年 7月 | 内閣府 (大臣官房政府広報室~2009年7月)              |
| 2018 (平成30) 年 3月 | 東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了, 博士 (学術) |
| 2018 (平成30) 年 4月 | 独立行政法人統計センター (総務部経営企画課など~2019年2月)    |
| 2020 (令和 2) 年 7月 | 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授                |

Research

■ 取得学位 博士 (学術) (東京大学)

■ 専門分野 オペレーションズ・リサーチ, 応用数学, 統計学

■ 現在の研究テーマ  
・ マックスプラス代数を用いたスケジューリング問題の理論的研究  
・ マックスプラス代数の性質に関する研究  
・ 公的統計に関する研究

■ 所属学会 日本応用数理学会, 日本数学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・ [Basic r-symmetric tropical polynomials], 2019年, Journal of Pure and Applied Algebra, Volume 223
- ・ [Applications of max-plus algebra to flow shop scheduling problems] (共著), 2018年, Discrete Applied Mathematics, Volume 247

【報告書】

- ・ [Re-engineering the Japanese Statistical System] (共著), 2012年, The OECD Statistics Newsletter, Issue 57

【口頭発表】

- ・ [max-plus代数とスケジューリング問題] (共著), 2018年, 日本応用数理学会年会
- ・ [max-plus代数における基本的な対称式], 2015年, 神戸大学神戸可積分系セミナー
- ・ [The Quality Assurance Framework in Japan] (共著), 2012年, European Conference on Quality in Official Statistics (Q2012)
- ・ 「代数方程式の超離散化」, 2009年, 青山学院大学青山数理セミナー
- ・ 「小地域推計と労働力調査への適用」 (共著), 2006年, 統計関連学会連合大会

■ 社会貢献活動

- ・ 「消費生活に関するパネル調査研究会」メンバー, 2015年, 公益財団法人家計経済研究所

# 小杉 卓裕

KOSUGI, Takahiro



講師

所属…人間形成教育センター

## Profile

■ 主な担当科目 微分積分学, 線形代数学

### ■ 研究者略歴

- 2012 (平成24) 年 3月 東北大学理学部数学科卒業
- 2014 (平成26) 年 3月 東北大学大学院理学研究科数学専攻博士課程前期2年の課程修了
- 2017 (平成29) 年 3月 東北大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期3年の課程修了
- 2017 (平成29) 年 4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)
- 2018 (平成30) 年 4月 福岡工業大学工学部知能機械工学科ポスドク研究員
- 2020 (令和 2) 年 4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター講師

## Research

■ 取得学位 博士 (理学) (東北大学)

■ 専門分野 偏微分方程式論

■ 現在の研究テーマ

- ・ 最適制御から現れるような完全非線形偏微分方程式に対する粘性解理論
- ・ 筋骨格システムに対するフィードフォワード制御可能性, 受動歩行ロボットの安定歩行条件等ロボティクスに現れる力学系の解析

■ 受賞歴 2017 (平成29) 年3月 博士論文川井賞 (公益財団法人川井数理科学財団)

■ 所属学会 日本数学会, 日本ロボット学会

## Data

### ■ 研究等活動

#### 【論文】

- ・ [Equivalence of viscosity solutions between obstacle and gradient constraint problems], 印刷中, Funkcialaj Ekvacioj
- ・ [Stability conditions of an ODE arising in human motion and its numerical simulation] (共著), 2019年, Results in Applied Mathematics
- ・ [経由点を有する1リンク2筋骨格システムにおけるポテンシャル解析] (共著), 2019年, 第24回ロボティクスシンポジウム講演論文集
- ・ [On the rate of convergence of solutions in free boundary problems via penalization] (共著), 2018年, Journal of Mathematical Analysis and Applications
- ・ [Maximum principle for Pucci equations with sublinear growth in Du and its applications] (共著), 2017年, Nonlinear Analysis
- ・ [Remarks on the comparison principle for quasilinear PDE with no zeroth order terms] (共著), 2015年, Communications on Pure and Applied Analysis

### ■ 社会貢献活動

- ・ 高岡第一高等学校特別進学コース進路講習会 講師 (2018年9月14日)